

## 後輩とも割り勘でOK

会社の帰りに酒を飲んだりするとき、後輩に金を出させるのは忍びないと考える人はまだ多い。かつて先輩からごちそうになった経験がある年配社員ほど、この傾向は強いようだ。

終身雇用や年功序列型賃金が主流だった時代は、先輩の方が給料は多かった。その後輩に還元する意味もあったろう。だが今は日本企業の人事制度も大きく変わった。後輩より多く飲食代を負担する理由は年々、希薄になっている。

先輩だからといって無理なおごる必要はないにしても、会計時の混乱を避けるために誘う段階で意思表示をはっきりしたい。全額負担するつもりなら「私がごちそうするよ」と言えばよい。少しだけ負担しようと思っただけなら「一万円しかないけど飲もう。足が出たら頼む」「今日は割り勘だぞ」でも良いだろう。

そもそも最近アフター5は付き合いたくないと考え、若手社員もいる。職場を離れた飲食は人間関係の潤滑油になるかもしれないが、「おごってやるから付けてこい」「先日、おごってやったんだから無理を聞け」といったごり押しは通用しないと心得ておこう。

(マナーデザイナー)

岩下 宣子

## 飲食の勘定

④